

元官庁技術者 石崎勝義 76

(茨城県つくばみらい市)

## 治水ダムより堤防強化

関東・東北水害をテレビで見  
 思ったことがある。

鬼怒川の水位が上がり、水が堤防を越え始めたがしばらくは堤防が持ちこたえていた。しかし、時間の経過とともに堤防からの水の勢いが増しすさまじいまでに強くなった。

そのため、決壊場所近くの家は流されてしまったし、道路を伝って流れた水は勢いが強く、避難ができず取り残された人が多数出た。大量の水は下流のほうに移動し、十キロも下流の住宅街にまで達

## ミラー

し多くの方が避難を余儀なくされている。

水が引いてみると決壊場所は深くえぐられ、また幅も広がっている。おそらく鬼怒川の水の何割かにあたる大量の水が流れ出たのだと思う。堤防の決壊がなければ、これほどの大災害にならずにすんだのではないかとも思った。避難をしないですむ人も多かつただろう。

堤防は土でできている。従って、越水が始まればすぐ決壊に至ると思っっている人が多いが、実は

堤防を越水に耐えられるようにする技術はすでにある。アスファルトで堤防を覆うなどである。

現地実験も繰り返されている。ダムを造る費用に比べればずっと安くできるはずだ。

気候変動の影響もあって、これからも過去にないような異常な洪水は全国各地で起きるであろう。現在の治水計画はダムに頼りすぎていると思う。堤防のそばに住む人は、時間のかかるダムの完成を待てないと思う。私も旧建設省の元技術者としていまは反省している。治水の方向をダムから堤防強化に移すべきだ。